



児玉 康比古 議員
(一問一答方式)

- ① 総合体育館の整備計画
- ② 公民館と分館との格差
- ③ 自主避難時の公民館職員体制

総合体育館の整備計画について

問 大洲市総合体育館は、昭和63年11月に竣工し、約27年が経過している。この間、多くの市民に利用され、体力向上や健康増進にも多大な役割を果たしている。しかし、長年の使用により、小体育室等の床の老朽化やガラスのひび割れ、雨漏りをしている箇所があり、建物のメンテナンス補修をすべきであると考えがどうか。

答 大洲市総合体育館は建設後27年が経過し、老朽化も進行しており、また大規模な施設であるため、維持管理に十分な手が行き届かないところもあり、利用者の皆様には不便をおかけしている点もあるかと思えます。小体育室床の張りかえの件も含め、限られた予算の中で対応する必要があることから、劣化状況等を把握した中で改修等の必要な箇所に優先順位

建設後27年が経過している総合体育館



をつけ、計画的に改修を進めていくことで、施設の安全性の確保と機能保全、施設の延命化を図っていきたいと考えています。

今年度は格技室の床の全面張り替えを行うこととしているほか、高齢者や障がい者に対しても施設を快適にご使用いただくためにトイレの改修を初め、バリアフリー対策の工事も実施することとしています。なお、窓ガラスの亀裂等御指摘の件については、修繕を進めているところです。

公民館と分館との格差について

問 喜多地区には、若宮分館、田口分館、五郎分館の3分館が

あり、年間行事、活動内容は、他の公民館活動と同等以上を行っているが、事務担当職員がいない状況である。また、本館公民館と同じように公民館運営審議委員会を開催しているが、委員の方々は全て無報酬である。3分館は、自治会組織が独立しており、その地域人口は他の公民館の人口と比較しても上位にあり、他の分館とは桁違いの多くの住民がいる。地域住民に対して格差のない平等な公民館運営をすべきであるが、今後の公民館運営方針について、将来を見据えた方針をどう考えているのか。

答 公民館及び分館の館内人口は、少子高齢化、人口減少等もあり、格差が広がっている状況下にあると認識しています。本市では、自治会を中心に区長会との組織の再編なども絡み大きく変化をしている状況下であり、再度検討を行う時期に来ているのではないかと認識しているところです。

既に現状を把握するため、県内の公民館及び分館の運営状況を調査中です。自治会と公民館、公民館本館と分館、中央公民館と地区公民館の役割等について、いま一度整理し直し、関係法令や地域が歩んでこられた歴史等も踏まえながら、市全体としてバランスに配慮した公民館及び分館のあり方を検討し、その運営に努めていきます。

いと考えています。

自主避難時の公民館職員体制について

問 避難指示及び避難勧告が発令されていなく、住民みずから危険性を感じ、早目に自主避難された場合、正規の市役所職員が勤務している公民館、正規の市職員でなく嘱託職員または臨時職員が勤務している公民館、分館、職員が勤務していない公民館、分館のそれぞれの受け入れと対応について、説明願いたい。

答 正規の職員が勤務している公民館の職員が避難の受け入れを行い、勤務時間外、特に夜間から早朝にかけても公民館に宿直勤務をするという形で対応しています。

また、正規の職員でなく嘱託職員のみが勤務する公民館、分館等の対応についても、同様の対応をする予定としています。嘱託職員が時間外勤務及び宿直勤務ができない場合は、本庁、支所からの代替職員の配置をしたいと考えています。

最後に、正規職員、また嘱託職員等が勤務していない公民館、分館の対応については、避難所として指定する段階において、地元自主防災組織や自治会での対応をお願いしているところです。